

豊中市
toyonaka

高校スポーツ発祥の地とよなか!
野球、アメリカンフットボール、ラグビー、サッカーなど、全国の高中生大会が開催された豊中グラウンドがあったまちです。

中核市(平成24年から)
大阪府に近いのれと、起伏に富んだ丘陵地帯は、早くから絶好の住宅地として選ばれ、文教都市の名声が高まるにつれ、人口が急激に増え市街地も大きく広がりました。

抜群の広域アクセスを誇るまち
阪急電鉄や大阪モノレール、北大阪急行、阪急バスといった公共交通機関が充実しています。また、阪神高速11号池田線、中国縦貫自動車道、名神高速道路、国道176号や423号(新御堂筋)など道路網が市内を縦横に走っています。さらに、大阪国際空港から全国各地へ、空路でつながると、市内や広域の交通利便性を支えています。

音楽あふれるまち
豊中市内には日本センチュリー交響楽団や大阪音楽大学など、他市にはない音楽環境があることから、「音楽あふれるまち」とよなかと銘打ち、子どもたちへのフルオーケストラコンサートや、市内の神社や教会でのアンサンブルコンサートなど、様々な音楽イベントを実施しています。

学校数 ● 小学校38校 ● 中学校16校
● 義務教育学校1校

<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/>

池田市
ikedata

『人と自然と文化』が調和するまち池田

「事始めのまち」として、阪急東宝グループを築いた『小林三三』や日清食品の創業者である『安藤百福』ゆかりの地である池田市は、大阪府北西部に位置し、五月山や猪名川などの自然に恵まれ、駅前を中心に商業施設が充実した住みよいまちです。

「大阪みどりの百選」にも選ばれている五月山公園は、春は桜、秋は紅葉の名所となっています。また、公園内には、「五月山動物園」があり、ワラビーやアルパカ、珍しいウオニバットなどが飼育されています。本市のマスコットキャラクター「ふいまるくん」は、ウオニバットをモチーフにしています。

学校数 ● 小学校9校 ● 中学校4校
● 義務教育学校1校

<https://www.city.ikedata.osaka.jp/>

箕面市
minoh

地域の絆で守る地域の安全

「大阪で一番安全なまち」をめざし、すべての通学路や公園に防犯カメラを設置。その数は、約2,000台!設置前と比べて、子どもへの声かけなど不審者情報やひったくりなどが半減し、効果は抜群。また、防犯カメラ設置費用の補助もしているため、自治会も地域にカメラを設置し、市民協働で防犯力を高めています。

学校数 ● 小学校12校 ● 中学校6校
● 小中一貫校2校

<https://www.city.minoh.lg.jp/index.html>

豊能町
toyono

人とみどりが輝くまち とよの

大阪府の北部にあり、北摂連山に囲まれた自然豊かなまち。「豊能町」。棚田が一面に広がり、川のせせらぎ、風の音が聞こえる「いなな」の顔と、整備された住宅地が続き、自然と調和した「まち」の顔を併せ持った町です。自然や立地に恵まれた環境のほかに、歴史も特徴的。かつてこの地はキリスト教信仰が行われ、キリシタン大名として名高い福者・高山右近の生誕地です。また、「豊能御影石」がとれる「石の町」として、史跡や石仏・石塔などが各地に残されています。

下記のイメージビデオ「とよのデイズ」をご覧ください。
<https://www.town.toyono.osaka.jp/page/page002396.html>

学校数 ● 小学校4校 ● 中学校2校
(うち小中一貫教育校1校)

<https://www.town.toyono.osaka.jp/>

能勢町
nose

人・地域・地球の健康を守り 緑をつなぐ 開かれたまち能勢

能勢町は、大阪府の北端に位置し、豊かな里山の自然と歴史に恵まれて生命を育み、独自の文化を持つまちとして発展してきました。里山の自然資源や人々のつながりを基軸として、人と人、里山と街をつなぎ、自立的で魅力あふれるまちづくりをめざしています。

とりわけ、SDGsの達成に向け「地域資源が循環する里山未来都市の実現」をめざし、ゼロカーボンタウンの実現や、里山資源の活用、健康長寿の取組など持続可能なまちづくりの実現に取り組んでいます。

学校数 ● 義務教育学校1校

<https://www.town.nose.osaka.jp/>

ホームページ
home page

教員採用選考関係の情報をホームページで随時更新しています。

詳細はこちら

豊能地区 教員採用 検索

<講師登録のご案内>
豊能地区講師希望者登録も随時受け付けています。

<https://toyono-jinjikyoo.com/>



令和8年度(2026年度)
大阪府豊能地区公立学校

教員募集

出願期間 令和7年(2025年) 3月24日(月)~4月24日(木)

選考職種 小学校教諭・中学校教諭・養護教諭・栄養教諭

出願方法 インターネットによる電子申込

※詳しくは「令和8年度(2026年度)大阪府豊能地区公立学校教員採用選考テスト受験案内」をご覧ください。

問合せ先 大阪府豊能地区教職員人事協議会事務局 採用グループ

〒561-8501 大阪府豊中市中樫塚3-1-1(豊中市役所内)
電話:06-6858-3341 ホームページ:<https://toyono-jinjikyoo.com/> 豊能地区 教員採用 検索

採用までの日程

願書受付

■電子申込(インターネット)
令和7年(2025年) 3月24日(月)~4月24日(木)
※初日は10時から、最終日は17時までの受付分有効。
※詳しくは「令和8年度(2026年度)大阪府豊能地区公立学校教員採用選考テスト受験案内」をご覧ください。

第1次選考

■筆答テスト 6月14日(土)
■面接テスト 6月21日(土)~7月1日(火)
※期間内のいずれか1日を指定します。

第2次選考

■筆答テスト 8月9日(土)
■実技テスト 8月2日(土)、8月4日(月)、8月9日(土)、8月24日(日)
※職種教科により異なります。
■面接テスト 8月16日(土)~8月23日(土)
※期間内のいずれか1日を指定します。

2次結果発表 9月26日(金)予定

採用前セミナー
健康診断
採用先市町決定通知
オリエンテーション
12月中旬~2月下旬予定

採用・辞令交付式

豊中市
toyonaka

豊かな夢を子どもたちに
ともに描く学びと創造のまち とよなか
～大きな夢を抱いて ほがらかに生きよう～

庄内地域に豊中市初の義務教育学校が開校

「つながる力」「まなぶ力」「つくる力」を基本として、やり抜くことで世界にはばたいていく子どもを育みます。令和5年(2023年)4月に庄内さくら学園が開校しました。また、令和8年(2026年)に庄内よつば学園が開校予定です。



教職員の働き方改革を推進

教員業務支援員を市立学校全校に配置、学校運営支援員(校長OB等)による巡回訪問および教職員からの相談対応、勤務時間外の留守番電話対応、携帯電話の配備、学校行事の精選、定時退勤日の設定、学校開庁日の導入等の取組を行い働きやすい職場環境づくりに努めています。

「マチカネ先生塾」および
教員サポートシステム

教員をめざす学生には「マチカネ先生塾」で、経験の浅い教員には、経験豊富な学校運営支援員(校長OB等)が授業力のサポートを行っています。



ICT活用のための環境整備

児童生徒用の1人1台タブレット端末は、家庭をはじめとした学校外での学習でも端末を活用できるよう、iPadのLTEモデルを配備しています。加えて、教員用端末の整備や、ICT支援員の配置も行っています。また、ICTを活用した子ども主体の授業づくりのための研修や、情報セキュリティやデジタル・シティズンシップ等の課題に応じた研修等を実施しています。

多文化共生

帰国・渡日や外国にルーツのある児童・生徒に対する様々な学習支援や居場所づくり等支援施策に取り組むとともに、互いに認め合い、尊重し合い、ともに生きる多文化共生の視点での学びを進めています。また、ユネスコ・スクール参加校等は国内外の学校との協働授業に取り組んでいます。

大学との連携～サウンドスクール事業～

大阪音楽大学との連携により「音楽があふれる学校づくり」を進め、子どもたちが「生きた本物の音楽」に触れる教育を推進しています。

池田市
ikeda

池田で学ぶ子どもたちに
『学ぶ喜びを!』

～魅力のある学校園づくり・特色のある研究活動～

小中一貫教育の推進

中学校区を「〇〇学園」と呼称し、幼稚園や保育園などの就学前から義務教育9年間を通じた小中一貫教育を推進しています。校種を越えた異学年交流も盛んで、児童・生徒はもちろん、校種の違う教職員同士もつながることができず。また、義務教育学校「ほごう学園」では、1～9年生が学校生活をともにしています。



外国語教育の推進

全小学校と義務教育学校に「英語専科教員」を配置し、1年生から6年生までの系統的な英語の指導を実践しています。また、教員を対象に、姉妹都市ローンセストン市(オーストラリア)への語学研修を実施し、現地の教育事情を学ぶとともに、現地校で指導者として授業を体験しています。

ICTの活用

全小・中・義務教育学校の各教室に電子黒板を整備し、児童生徒1人1台タブレット端末を導入。教職員にもタブレット端末を貸与しており、ICT機器を活用した新しい授業づくりの研究や校務での活用方法についての研究も日々行われています。



支援教育体制の充実

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校に道級指導教室を開設し、個に応じた指導を進めています。

～学校の枠を越え、学びでつながる地域社会との連携～

地域社会との連携

学校、地域、家庭が協働し、子どもたちが生き生き活動できる「教育コミュニティづくり」を推進しています。また、留守家庭児童会の機能拡充のための環境整備を進め、子どもの居場所づくりや家庭教育支援を行っています。

ふくまる教志塾で人材の育成

池田市の教員をめざす方に向けて、「ふくまる教志塾」を開塾し、学校現場で子どもたちとともに学ぶ「現場実習」と学識経験者や現場の教員から「今」を学ぶ「セミナー」の二本柱で、教員としての資質・能力を育成しています。



箕面市
minoh

子どもたちの豊かな学力を育む、
最新の教育環境

ICTを活用した授業・保護者との連絡



箕面市では、全児童生徒に配備された1人1台のタブレット端末を使い、一人ひとりの課題に応じたドリルに取り組むなどして個別最適化された学習を進めています。また、学習支援ソフト「tomolinks」を活用し、オンライン上でのプリント配付や回収を行うことが可能です。デジタル連絡帳を活用することで、児童生徒端末のみならず保護者のスマートフォンにも反映され、正確かつ迅速に連絡事項を伝えることができ、教員と保護者の負担を軽減しています。

すべての小・中学校で
9年間一貫した教育を実施

箕面市では市内の全小・中学校で、小中一貫したカリキュラムが組まれており、子どもたちはのびのびと成長できます。中でも、「とどろみの森学園」と「彩都の丘学園」は9年間同じ敷地で学べる施設一体型の小中一貫校で、市内の小中一貫教育をリードしています。

「箕面の授業の基本」で
指導のスタイルを確立

箕面版「授業の手引き」を活用することで、すべての先生が子ども主体の課題解決型授業を展開しています。

英語教育の推進

箕面市では、市内の全小・中学校の全学年で、英語の学習を毎日実施しています。さらに、各校でネイティブ(英語指導助手)とのチームティーチングを実施し、学校の授業だけでなく、高い英語力を身につけることができます。箕面から世界へ活躍できる子どもを育てています。



「びあ・カレッジ」で教員養成

箕面市の教員を志す学生および講師の方を対象に教員養成セミナーを実施しています。「ICT教育」「授業づくり」「生徒指導」「支援教育」「人権教育」など様々な教育内容について学び、子どもたちの豊かな人生を切り拓くために必要な教員としての資質・能力を育んでいます。

とよの
大阪府豊能地区とは

大阪府の北西に位置する、豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町の3市2町を豊能地区と呼んでいます。大阪国際空港やJR新大阪駅に近接する成熟した都市部と、季節ごとに様々な表情を見せる魅力的な自然環境を併せ持った地区です。

豊能地区は全国で唯一、市町共同で教員採用選考を実施しており、毎年各地からここ豊能地区で先生になることをめざす、多くの方に志願いただいております。



選考職種 小学校教諭・中学校教諭・養護教諭・栄養教諭

出願期間 令和7年(2025年)3月24日(月)～4月24日(木)

出願先 インターネットによる出願: <https://toyono-jinjikyoo.com/>

※詳しくは「令和8年度(2026年度)大阪府豊能地区公立学校教員採用選考テスト受験案内」をご覧ください。

能勢町
nose

自分が好き 能勢が好き
仲間とともに 夢がいっぱい



義務教育学校
～発達段階に応じた柔軟な指導・支援～

「もっと地域とともに」「もっとあたらしい学びへ」「もっとチームに」をスローガンに、町内でひとつの学校である能勢ささゆり学園が令和4年4月に義務教育学校へ移行し、9年間の学び・生活を効果的につなげています。

学力向上サポート

ICTの活用推進、英語教育の充実(英語4技能テスト【5～9年生】など)、能勢町学力テスト、能勢分校との連携など、様々な機会を設け、確かな学力の定着をめざしています。

子どもの安心サポート

福祉との連携、SC・SSW等の多職種で構成するチーム学校、コミュニティ・スクールの取組、支援教育の充実、通級指導教室の開校など、学校×地域×行政で一人ひとりの子どもを大切に教育を進めています。

働きやすい環境

豊かな自然に囲まれ素直で元気な子どもたち、学校と協働する地域・保護者、あたたかい教職員集団、広々とした充実した学校施設。小さな町ならではの充実した教育環境のもと、「夢」を持つ子どもたちを育てています。

体力向上サポート

大学と連携し、授業支援・体力向上プログラムやイベントを実施し、元気でたくましい子どもの育成に努めています。



豊能町
toyono

「豊かな自然」と「豊かな人材」を活かし
「豊かな子ども」を育てる



【めざす子ども像】豊能町に誇りをもち、自信をもって社会を生き抜く子ども

地域とともにある義務教育学校の設立

令和8年4月、東西それぞれに義務教育学校(2校)を設立し、新しい学びの段階「4・3・2制」を導入していきます。先行して、令和4年4月、東地区に施設分離型の小中一貫教育校「東能勢小中学校」を開校し、前期学部(1～4年)が小学校校舎、中・後期学部(5～9年)が中学校校舎で学校生活を送っています。



東能勢小中学校 開校式(中学校校舎)

保幼小中一貫教育の推進

0歳から15歳までの15年間の「学び」と「育ち」をつなぐ一貫した教育を推進し、「確かな学び」と「豊かな心」の育成、「グローバル人材」の育成をめざします。
*「グローバル人材」とは、グローバル(世界)とローカル(地域)を合わせた言葉で、どちらの視点も持てる豊かな人材のこと。



「とよの未来科」の本格実施

地域資源を最大限活用し、豊能町だからこそ学べる「体験的・探究的な学習」を就学前から行います。「とよの」の宝物について学び、グローバルな視点で「豊能町の未来」のために自分たちでできることを考える学習を行っています。



生き物探し(初谷川)